

令和4年度第4回狛江市社会教育委員の会議(要旨)

- 1 日 時 令和4年11月28日(月)午後6時から午後7時20分まで
- 2 場 所 狛江市市役所4階 特別会議室
- 3 出席委員 塚越委員長、伊藤委員、小田嶋委員、梶川委員、楠本委員、佐藤委員、中川委員、福田委員、万木委員、鷺見委員
事務局 鎌谷課長、瀧川補佐、千葉主事
- 4 議 題
 - (1) 委員の報告
 - (2) 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第五ブロック研修会について(報告)
 - (3) 第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会について(報告)
 - (4) 施設視察研修について
 - (5) その他
- 5 配布資料
 - 資料1 社会教育委員の手引き ～人づくり・地域づくりを目指して～
 - 資料2 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第五ブロック研修会次第
 - 資料3 第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会・大会日程・内容

6 会議の結果

議題(1) 委員の報告

委員：

議題(2) 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第五ブロック研修会について(報告)

事務局：(資料1及び2について説明)

議題(3) 第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会について(報告)

事務局：(資料3について説明)

委員長：私たちが3年ほど前に委嘱された時に、こういったものがあると良かったかなという気がする。色々、法的な根拠であるとか紹介されているが、改めて社会教育委員が何をする必要があるのかということがわかる。

前回の会議で、何か1年かけて私たちが検討できるものがないだろうかという話もされていたが、やっぱり、改めてみると、社会教育委員の会議があって、たまたま委員長を任されているが、社会教育委員というのは、私たち一人一人で、どういう活動すべきなのか、何をすべきなのか、社会教育委員について捉え直す良い機会であった。

議題（4）施設視察研修について

事務局：昭島市に連絡を取って、昭島エンスの施設見学をお願いしたい。日程を調整したい。

委員長：大体視察の時間は1時間半。

事務局：12月15日くらいまでに希望の有無を連絡いただきたい。

議題（5）その他

意見交換（コロナ対応や居場所づくりについて）

- ・学校は少しずつ元に戻りつつあるが、未だ全校児童が集まる活動はなかなか難しいで状況。校庭であれば、全校児童で集まっている学校もある。そのような形で少しずつとは感じている。
- ・コミュニティ・スクールが今年度から始まった。コロナの状況も変わってきて、保護者とか、地域の方々も、どんどん学校に入ってきてもらい、様々な教育活動を進めていきたい。感染対策等をしっかりしていれば、校内で色々協力していただくことは特段問題がない。
- ・学校と地域というのは一体である。学校教育では、教育者の教育意図がなければ、教育課程ができない。社会教育と基本的に考え方は同じ。学習者の学習意欲が一番大事。学校教育では学びと主体の教育という言い方をする。教員が教えたいことを教えることが大事なのではなくて、学び手である子どもたちが主体となって、本当に自分たちが成長するために学んでいくという考え方。社会教育で目指していることと、学校教育で目指していることは同じ。当然、学校は大きな改革していくことが求められ、社会教育もそうだと思う。狛江にしかできない変わり方をきつとしていかななくてはならない。
- ・手話通訳をしいるが、狛江は考えられないぐらい聞こえない人との距離が近い。大体知ってる人という状況の中で、通訳をする難しさがある。やはり、世田谷などと比べるともう全然数が違う。やはり地域差というものがある。狛江は大きな区や東京都から見ると大きくない良さも、大変さみたいなものもあるが、そう思う。
- ・市民の有志が企画して、中央公民館主催の居場所づくりを考える講座をやっている。既に4年間ぐらい、学校閉庁期間に居場所事業として中央公民館を居場所として開放している。自分も自宅の縁側を開放して、小さな居場所づくりを試みてい

る。居場所づくりの一つであるが、調布のお寺で子ども食堂をやっている。住職さんが取りまとめ役をやっていて、面白い取組。公民館が主催する講座を活性化していくことが自分の課題。子どもの実験教室などをやっているが、業者へ外部委託している。批判するつもりは全くないが、何か地域の人が活躍できる場を作っていければと思っている。

- えきまえ広場で、お祭りみたいのがあって、ゲーム等を催して、その手伝いみたいなことをやり、すごく盛り上がり、楽しかった。飲食の出店もあり、そのようなイベントは今までは余りなかった飲食系もあって良かった。緑野小のブラスバンドも出て、この密は大丈夫かとも思ったが、大変盛り上がった。世の中動いているなと感じた。
- 児童館で仕事している。コロナ感染対策をしながらということで、学校に準じて、対応している。コロナ禍で、事業ができなくて丸2年が過ぎた。職員の入れ替わりの時期もあって、若い世代が入ってきたが、児童館の事業がイベント屋さんのようになってしまい、イベントが目的ではないことが、うまく伝わらない。
- PTAの活動自体も少なくなってきたり、やらなくてもいいものはやらないとなってきた。地域の健全育成の取組などでも、今までやってきた人たちは活動を復活できない。では、そこから新たに引っ張って一緒にやりましょうというなかなかそこに進まない。あれば参加するが、自分が主体的になってやるというところがなかなか難しい。やはり、私たちがつなげていく、人と人のつなぐ場、どうつなげていくかが課題。
- 公民館で市民大学をやっているが、勉強になるし、時間があれば飛び込んでみたいという気持ちはある。そういう方はたくさんいると思う。自分が主となってやるのはなかなか難しい。取りまとめるのも難しい。昔の仲間に声をかけるにしても、個人情報のあることがあり、連絡先を手に入れることが難しい。
- SDGSに関してだが、カタールのワールドカップ大会は環境問題とか、人権問題とがあって、ドイツの友人に聞いたが、ドイツでは今まで以上に盛り上がっていない。ヨーロッパのスポーツ選手は、社会的な意見を求められるので、講義の意思表示の「OneLove」の腕章とかが認められず、ボイコットとかしているが、ドイツチームは参加してしまったので、スポンサーが撤退したり。一方、日本サッカー協会会長は、試合とそういったことは別である。今、話すことは好ましくない。でも、サッカー協会のホームページを見ると、「私たちはSDGSを尊重します」と載っている。ヨーロッパとか全然違う状況。日本の場合は選手とかそういう感覚を持っていたかもしれないが、社会的発言をするとネットとかで叩かれてしまう。向こうは逆に言わないと叩かれるという状況。衛星放送とかBBCとか、まず出てくるのが人権の話。日本のニュースとか放送では、試合の話と街の様子で、人権とかはつけ足し程度。メディアの情報のバランスとか、感覚とか、そういったことがすごく大丈夫な

のかなと思ったし、結構気になっていたところで、やはりオリンピックも色々問題が出ている。バランス感覚が大事な時代になったと感じた。

- 社会教育委員の意識調査が出ているが、設置の目的や役割について、誰に向けて言っているのか。とても人ごとのような感じがする。一方で、自分のベースの質問もあるので、ポイントというか、自己に対する問なのか、何もしない事務局への問なのか。なぜこういうのが出ているのか。社会教育委員の役割を果たすため、委嘱の方法、会議の回数、会議の運営、意見の反映の仕方などについて工夫、改善が必要と書いてある。その辺がやはり今の課題になるのかなと私は思った。

委員長：こういう勉強をまた次年度ですることも大事と思う。色々議論して、色々話が聞けたらと思う。

事務局：次回は会議ではなく、視察研修になるのでよろしくお願いします。